白井城跡（渋川市）

しろいじょう

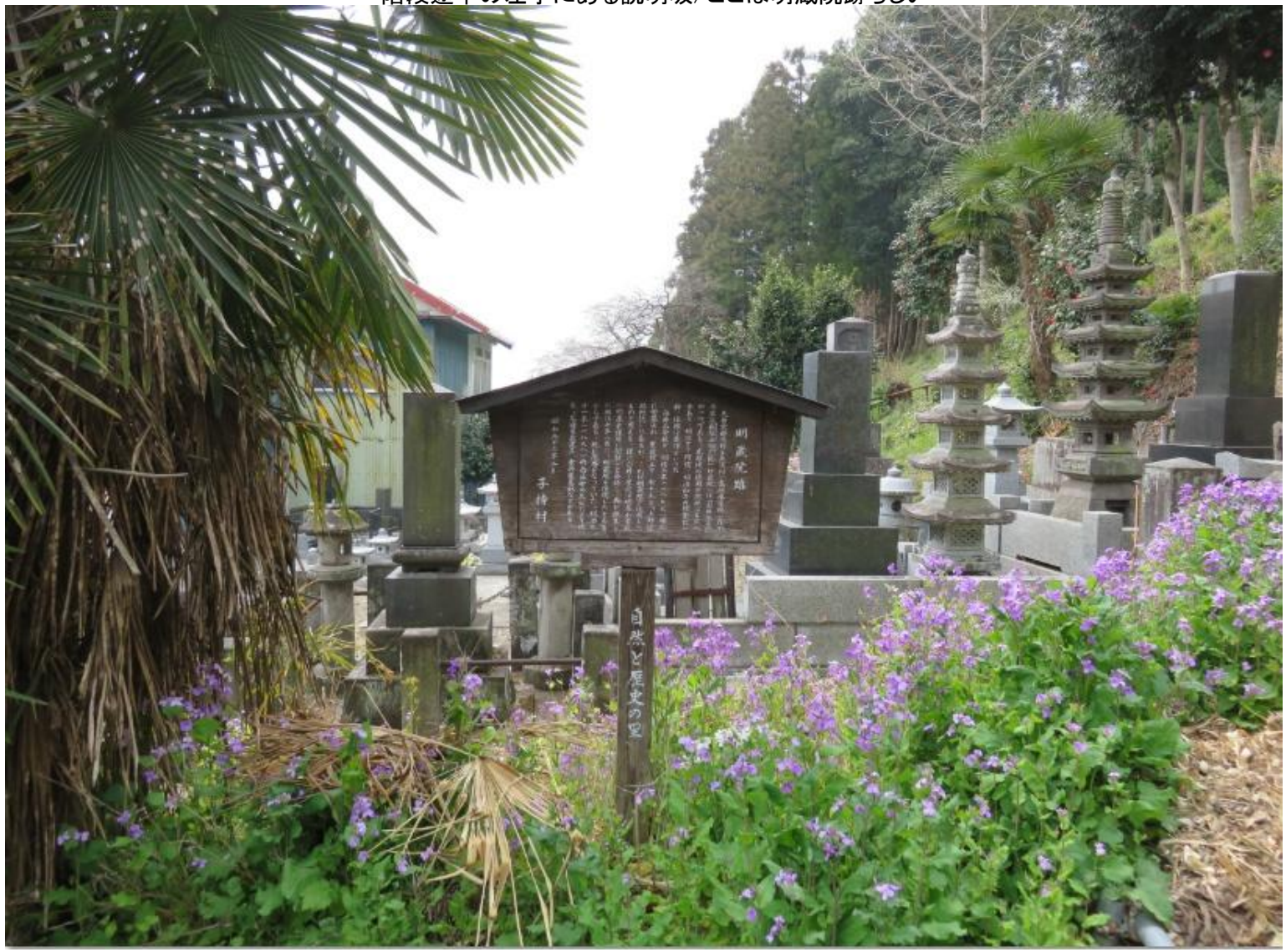
築城年代：永享年間（1429年～41年）、築城者：長尾景仲

ここは白井城の城下町で、群馬県高崎市から新潟県長岡市を結ぶ三国街道にあった宿場町の白井宿/「白井城址」の標柱がある

正面の細い道を入って行くようだ/前方の木々のエリアに白井城跡が展開する

前方の階段の上に神明宮が見える

階段途中の左手にある説明坂/ここは明蔵院跡らしい



明蔵院跡

天台宗群馬郡上並榎村（高崎藩管轄）護国寺末派長福山明蔵院（妙蔵院）は、「白井城三院」の一つである。元禄頃の境内の除地は五畝八歩あり、明治まで持続・明治初年の檀家数一軒、住職は恭淨といった

白井小学校が、明治六年（一八七三）横町に営築され、生徒数五十・女十五と「上野国郡村誌」にあるが、これは明蔵院を使用したものと思える。後に白井小学校は吹屋小学校（吹屋玄棟院に開設）と合併し、再び独立した明治七年八月に、明蔵院を使用したとあるからである。既に廃寺となっていた。明治三十一年（一八九八）の白井町の大火により焼失。石碑多数建立、金井家墓地などがある。

昭和六十三年二月

子持村

これが神明宮

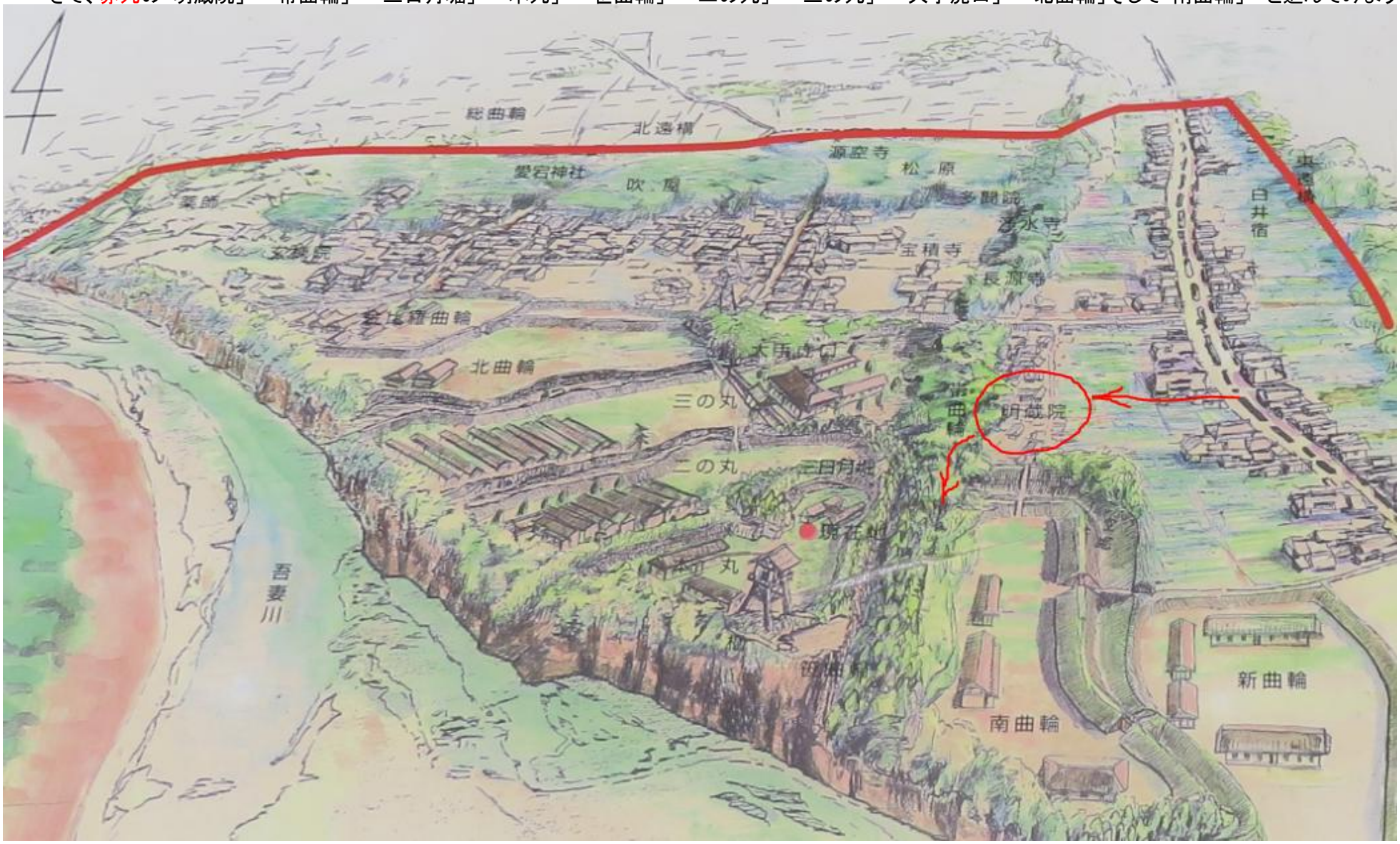
神明宮

白井市方のこの地は
伊勢神領で明治維新
の土居に当る所に鎮座
元禄頃の除地帳に畑四
別当は明蔵院宝[illegible]
祭神は天照大神社
五間・南北五間一間拝殿
二十坪とあり、祭[illegible]
であったが、現在の[illegible]
十五日と十月一日[illegible]
の町を宮本町[illegible]

昭和六十三年二月

子[illegible]

さて、赤丸の「明蔵院」→「帯曲輪」→「三日月堀」→「本丸」→「笹曲輪」→「二の丸」→「三の丸」→「大手虎口」→「北曲輪」そして「南曲輪」へと進んでみよう



社殿の左手を進む

帯曲輪に繋がる土塁状の上を南方向に進む/右手は城域を取り巻く空堀

右手の空堀の堀底に下りて南方向を見たところ

この先は藪となっている

帯曲輪へと進んで右手の空堀を見たところ/前方に空堀を渡る土橋が見える

その土橋を見たところ/土橋の左手は三の丸（左手）を取り巻いている空堀

左手を見るとその空堀は三の丸（右手）を取り巻くように南方向に延びている/左手の土手状の所は帯曲輪

帯曲輪を南方向に進む/右手が三の丸（右手）を取り巻く空堀

その三の丸を取り巻く空堀の堀底に下りて南方向を見たところ

その堀底を南方向に進むと右手に廻り込むように空堀が枝分かれしている

その右手に廻り込む空堀を見たところ/これは右手の三の丸と左手の二の丸の間の空堀となっている

帯曲輪を更に南方向に進む

帯曲輪は空堀と並行して延びている

少し進んで右手を見たところ/ここでも右手に空堀が枝分かれして西方向に延びている/空堀の右手は二の丸、左手は本丸

左手を見ると帯曲輪に沿った空堀が更に南方向に延びている/前方に階段があり、右手に枝分かれした空堀に進めるようだ

ここがその階段を下りる所/行き先表示と標柱が立っている/ここは前方左手の南曲輪と右手の本丸との分岐点となっている

右手に枝分かれし、本丸を取り巻く空堀が「三日月堀」である

振り返って見たところ

左手の階段を下りて進むと「三日月堀」へと至る/標柱には「帯郭」と記されている

これは帯曲輪に沿った空堀に下りて、更に南方向を見たところ

そこで振り返って見たところ/右手は今進んで来た帯曲輪に沿った空堀/左手の階段を上がって行くと「三日月堀」に至る

右手の今進んで来た帯曲輪に沿った空堀を見たところ/右手は帯曲輪/左手は二の丸

これは「三日月堀」方向を見たところ/右手は二の丸/左手は本丸

空堀は本丸を取り巻き左手にカーブして「三日月堀」となっている/その堀底は水を含んでいて、水堀であったのであろうか

左手に廻り込んだところ/左手が本丸/正面に桝形門の石垣が見える

「三日月堀」と記された標柱が立っている

正面が「三日月堀」を上った所にある桝形門の石垣

振り返って「三日月堀」を見たところ/右手が本丸、左手が二の丸

これは二の丸側から本丸方向に「三日月堀」を見たところ/空堀が三日月状にカーブしているのが見て取れる

さて、これは二の丸から本丸への桝形虎口の土橋から桝形門の石垣を見たところ/左手が「三日月堀」で、右手は空堀が吾妻川へと延びている

標柱が立っている

これが右手の吾妻川へと延びる空堀/左手が本丸、右手は二の丸

これが桝形門の石垣

築造にあたっては太田道灌が指導したと伝わるが

こんなものも

別の角度から見る

これは本丸内から枡形虎口を見たところ/左手に説明坂がある

白井城址案内板

白井城は利根川と吾妻川の合流点に突き出した台地の先端に自然の要害を利用して築かれた城である。全体が三角形に近い構造で、城の中心である本丸は吾妻川沿いにあって西側は断崖に面しており、それ以外の方角は高さ三～四メートルの土塁に囲まれている。北側には枡形門があり、太田道灌が指導したとの伝承が残る石垣が現存する。本丸を出て深い堀を土橋で渡ると北へ二ノ丸・三ノ丸と続き、その間にも堀が残っている。三ノ丸の外側には北の守りとして北郭・金比羅郭があり、本丸の南東にはさ郭・南郭・新郭が連なっている。さらに城域の北と東には、それぞれ北遠構・東遠構の堀があって総郭（城下）を囲む構造になっていた。なお城の護りの一部として、玄棟院（曹洞宗）・源空寺（浄土宗）をはじめとする大小の寺院が周囲に配置されている。また白井城の南東には仁居谷城があり、堀跡等も確認されていて両者の関係が注目される。

いつ頃築かれたかは諸説あるが、一五世紀中頃に関東管領山内上杉憲実の信任が厚かった長尾景仲（昌賢）によって築かれたと考えられる。景仲は月江正文禅師を開山とする雙林寺（曹洞宗）や、「白井の聖堂」と呼ばれる学問所を開いたことでも知られている。その子孫も白井城やその周辺をめぐる戦国の攻防の中にそれぞれの名を残したが、天正一八年（一五九〇）に豊臣秀吉の小田原攻めの際、前田利家に攻略されて開城し、戦国の城としての役割を終えた。その後は徳川家康の関東入りにしたがい本多広孝・康重が城主（二万石、のち五万石）となり、この頃に現在の姿に整備されたと考えられる。康重の岡崎移封後は戸田康長・井伊直孝・西尾忠永・本多紀貞と続くが、寛永元年（一六二四）紀貞の病没とともに廃城となった。

これ以後の経過は明らかでないが、少なくとも明治時代以降は農地化されていたと思われ、昭和四〇年代の土地改良事業においても大幅な地形の改変はなく、堀や土塁など城としての地形が良く残っている。なお、平成一六年三月には本丸部分が子持村の史跡に指定され、保存と活用がはかられていくことになった。

子持村教育委員会

白井城復元図
4
総曲輪
北遠構
愛宕神社
吹屋
源空寺
松原
多聞院
宝積寺
長源寺
白井宿
東遠構
北曲輪
三の丸
二の丸
三日月堀
吾妻川
新曲輪
南曲輪
参考原図 旧子持村村誌編さん室作成

至渋川
観音坂
金比羅郭
中之坂
北　郭
不動尊
下之坂
三の丸
神明宮
吾妻川
二の丸
本丸
南郭
笹郭
新郭
大宮姫神社
国道17号（鯉沢バイパス）

白井城は、山内上杉氏の有力な配下で家老職を勤めた長尾一族のうち、白井を本拠とした白井長尾氏の居城である。長尾氏が上野国に入ったのは、建武4年（1337）に上杉憲顕が上野・越後両国の守護となり、長尾景忠が守護代を務めたことに始まる。上野での景忠の居所は惣社（前橋市）で、当時白井には白井氏を名乗る武士団が存在していた。その後上野と越後の守護が分岐し、長尾氏も景忠の3人の子どもが分立し、景廉が越後長尾氏、景直が鎌倉長尾氏、清景が白井長尾氏の祖となったと「雙林寺本平姓長尾系図」に記されている。

白井城の築城年代は、虎口東側に張り出し部を有する本丸の構造が、享徳の大乱（1454～82）時に上杉軍が本陣とした武蔵五十子城（埼玉県本庄市）の主郭構造と相似していることから、両城とも、15世紀半ば頃、長尾景仲（昌賢）が城主の時代に築城されたものと推定されている。

長尾景仲は、主君である関東管領上杉憲実・憲忠・房顕に仕え、「関東無双の案者（知恵者）」と称された武将である。中郷に月江正文を開山として雙林寺を建立し、白井城内には京都から儒学者藤原清範を招いて聖堂を建立し家臣に儒学教育を行っている。雙林寺には県指定重要文化財「長尾昌賢木像と長尾氏位牌」が保存されている。

景仲の没後、北条氏、上杉氏、武田氏による覇権をめぐる戦乱の中、白井長尾氏は景信、景春、景英、景誠、憲景、輝景、景広と代替わりし、景広城主の時、豊臣秀吉の小田原攻めが開始され、天正18年（1590）、前田利家、上杉景勝の両軍の前に開城した。豊臣方に開城した白井城は、徳川家康家臣の本多広孝に与えられ、その子康重は二万石で城主となった。家康領国下では沼田城の真田昌幸を押さえる前線基地の役目を果たしたことになる。康重の岡崎移封後は康重の第二子紀貞が入城したが、寛永元年（1624）死去し、嗣子がなかったため廃城となった。

白井城は本丸を中心とした梯郭式縄張りで、五重の空堀と土塁がめぐる。西側は吾妻川の崖線上に形成され、自然の要害となっている。

本丸出入口に現存する野面積石垣の枡形虎口や新曲輪は本多氏の時代に拡張・整備されたものである。枡形虎口前方東側の三日月堀は武田氏築城法によって築城した名残と言われている。また、本丸奥には櫓台石垣があり、本丸背後に一辺15mの笹曲輪が設けられる。本丸北には二の丸、三の丸、北曲輪があり、その北西に金比羅曲輪が残る。北曲輪には大手虎口が開かれる。本丸、二の丸、三の丸の東側は堀を隔てて幅10m程の帯曲輪が長く続き、北曲輪大手虎口に達している。

この城の総曲輪は、北側の吹屋屋敷・松原屋敷と東側の白井宿に囲まれていて、その外側には東西950mの北遠構と、南北650mの東遠構の堀が残っている。松原屋敷では大永年間から永禄年間（1521～1570）、明珍信家が甲冑を製作していたことがわかっており、吹屋では近年まで鍛冶が行われていた。宿は城東側に南北に形成され、道路中央に雨水排水路が設けられている。

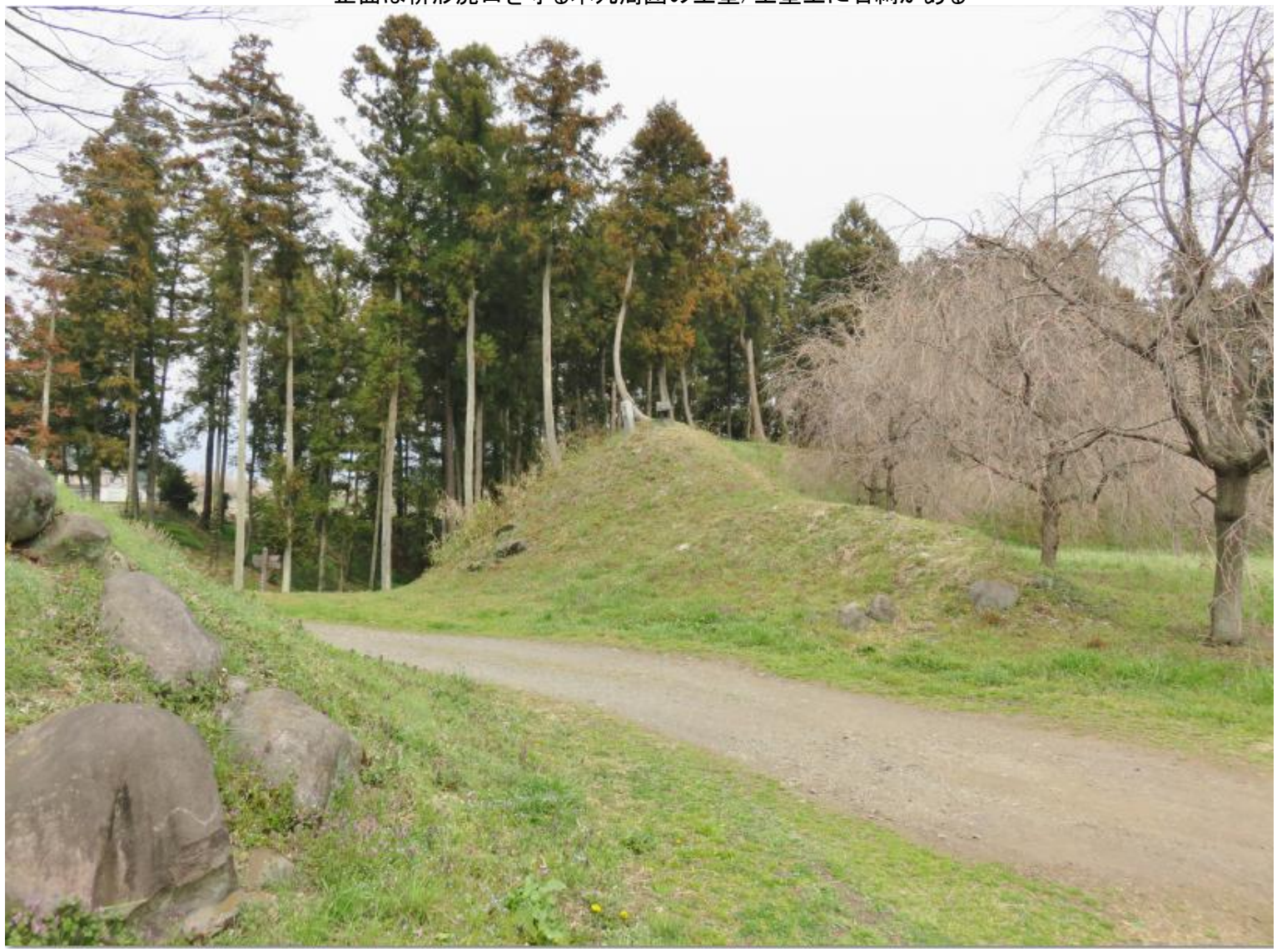
白井城構築後、段丘の境目に、北より多聞院・浄水寺・宝積寺・長源寺・明蔵院の五寺が併立して城防衛の役目の一端を果たしていた。また、長尾氏時代の外構には、城の護りとして玄棟院、薬師、愛宕神社、神明宮といった寺社が配置され、後になって源空寺が建った。源空寺は本多氏の創建と伝えられている。

平成26年　渋川市教育委員会

こんなものも立っている

白井城歌碑
京都相国寺の学僧万里集九は、東国巡遊の途次、長享二年(一四八八)九月二十八日、白井城を訪れて一泊し城主上杉顕定の知遇を受け、城中を歴観した作詩をその旅日記「梅花無尽蔵」に収めている。
白井城中歴観の作
屋如京洛地如槃　屋は京洛の如く地は槃の如し
遺恨今無冬牡丹　遺恨なり今冬牡丹の無きを
旅底聊斟盃味薄　旅底聊か斟む盃味薄し
洞宗禅不及相看　洞宗の禅相看るに及ばず
「家並みは京都のようで地は平らである。
今、冬牡丹(上杉定昌)がいないのでさみしい。
旅の城中でいただく酒の味がうすい。
(だから)曹洞宗雙林寺曇英惠応和尚に会う気も起きない」
平成二十八年八月　淡川市教育委員会

正面は枡形虎口を守る本丸周囲の土塁/土塁上に石祠がある



土
塁

そこへ登って、振り返って枡形虎口を見たところ

この本丸を囲む土塁上を時計回りに進んでみよう

ここは本丸を囲む土塁の北側辺り

そこから南方向に本丸を見たところ

これは本丸を囲む東側の土塁/左手は先程の帯曲輪に沿った空堀

南方向に進む

これは南側の土塁上から北方向に本丸を見たところ

そこで左手を見たところ/本丸の一部は畑として利用されている

南西部分の土塁上にはこんな石祠が立っていた

南側の土塁上から更に南方向を見ると一段下に平場があった

ここは笹郭

その南先端にある物見台のような岩山/櫓台らしい

そこへ登って西方向を見ると吾妻川が流れている（中州がある）/本丸の三方は土塁で囲まれ、西側はこのように断崖となっている

そこで振り返って北方向を見たところ/正面の土塁の向こうが本丸

これは本丸の南西部分の土塁上で西方向を見たところで、吾妻川の対岸が見える

そこから北方向を見たところ/先程の畑が見える

さて、これは枡形虎口の土塁上から空堀越しに二の丸を見たところ/右手が二の丸への土橋/更に右手が「三日月堀」

ここが二の丸のエリア/前方の木々の向こうに、二の丸と三の丸の間の空堀がある

標柱が立っていた

振り返って本丸方向を見たところ/前方の林の向こうに「三日月堀」がある

右手を見たところ/二の丸のエリアである

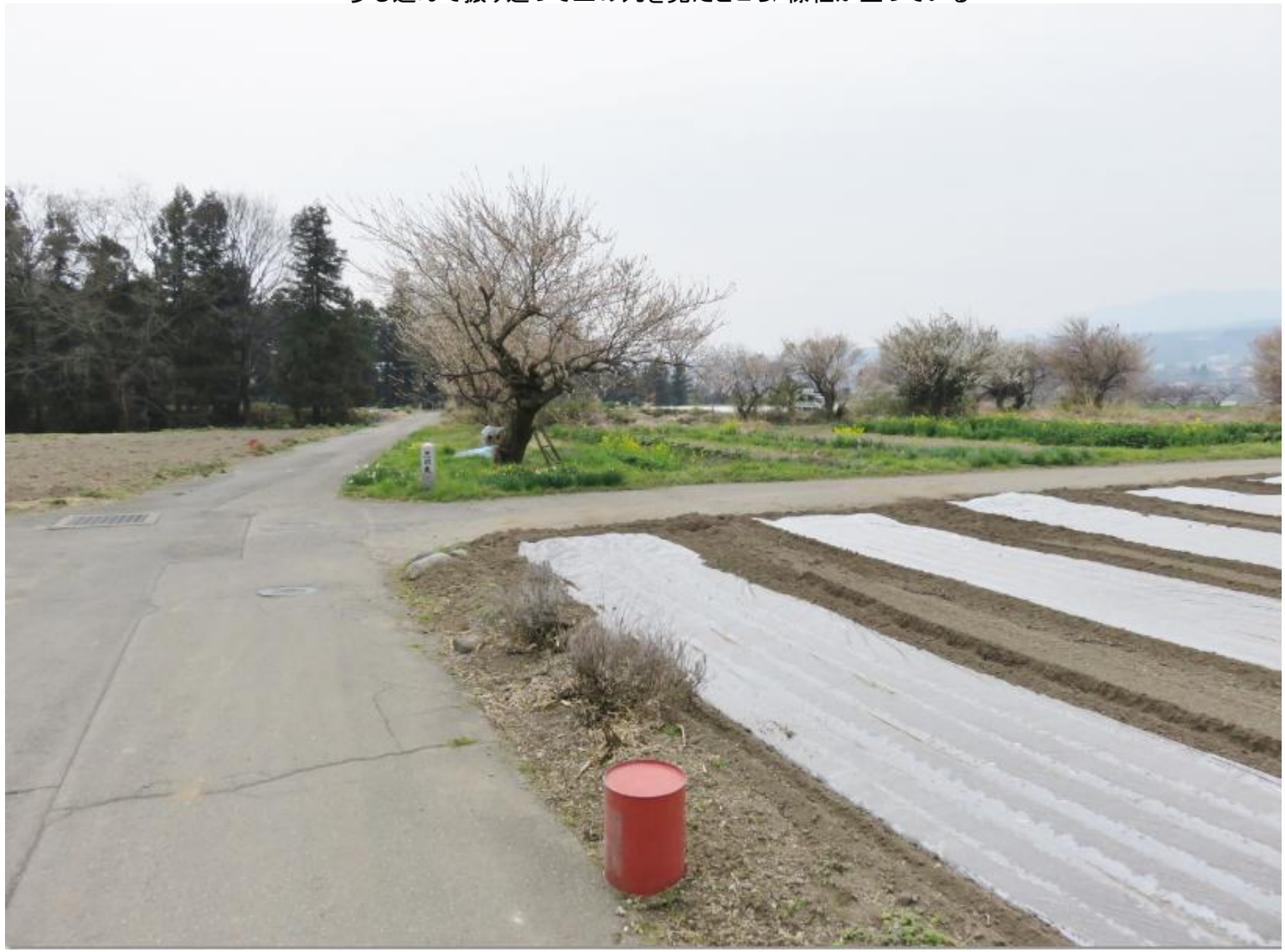
さて、これは二の丸から三の丸方向（北方向）を見たところで、手前が二の丸と三の丸の間の空堀を渡る土橋

その土橋から右手を見たところ/右手が二の丸、左手が三の丸/この空堀が前方で帯曲輪に沿ってあった空堀に合流している

振り返って見たところ/堀底が畑として利用されているが、こちらも二の丸（左手）と三の丸（右手）の間の空堀で吾妻川に下っていく

三の丸のエリアを北方向に見たところ

少し進んで振り返って三の丸を見たところ/標柱が立っている



三の丸

そこで東方向を見たところ

さて、これは三の丸から更に北方向の北曲輪方向を見たところ/前方の曲がる辺りが三の丸と北曲輪との間の土橋となっている

右手を見たところで、この木々の向こうが空堀となっており、右手に延びて帯曲輪に沿ってあった空堀に合流している

こちらは左手の空堀/左手が三の丸、右手が北曲輪

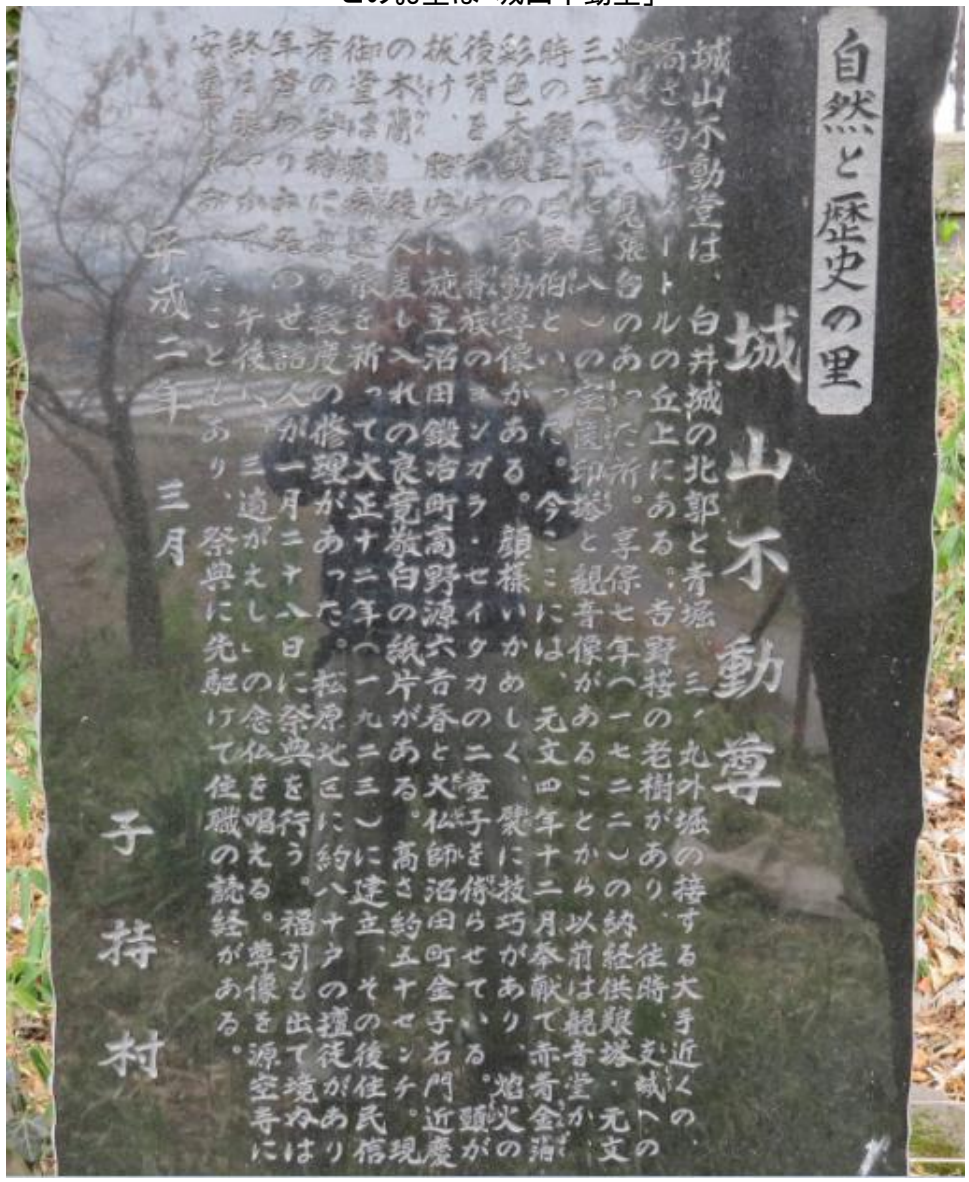
ここから左手が北曲輪のエリアで、前方の辺りが大手虎口らしい/正面のお堂が建っている部分は櫓台らしい

櫓台の手前で振り返って見たところ/標柱が立っている

北
郭

櫓台に登ってみる

このお堂は「城山不動堂」



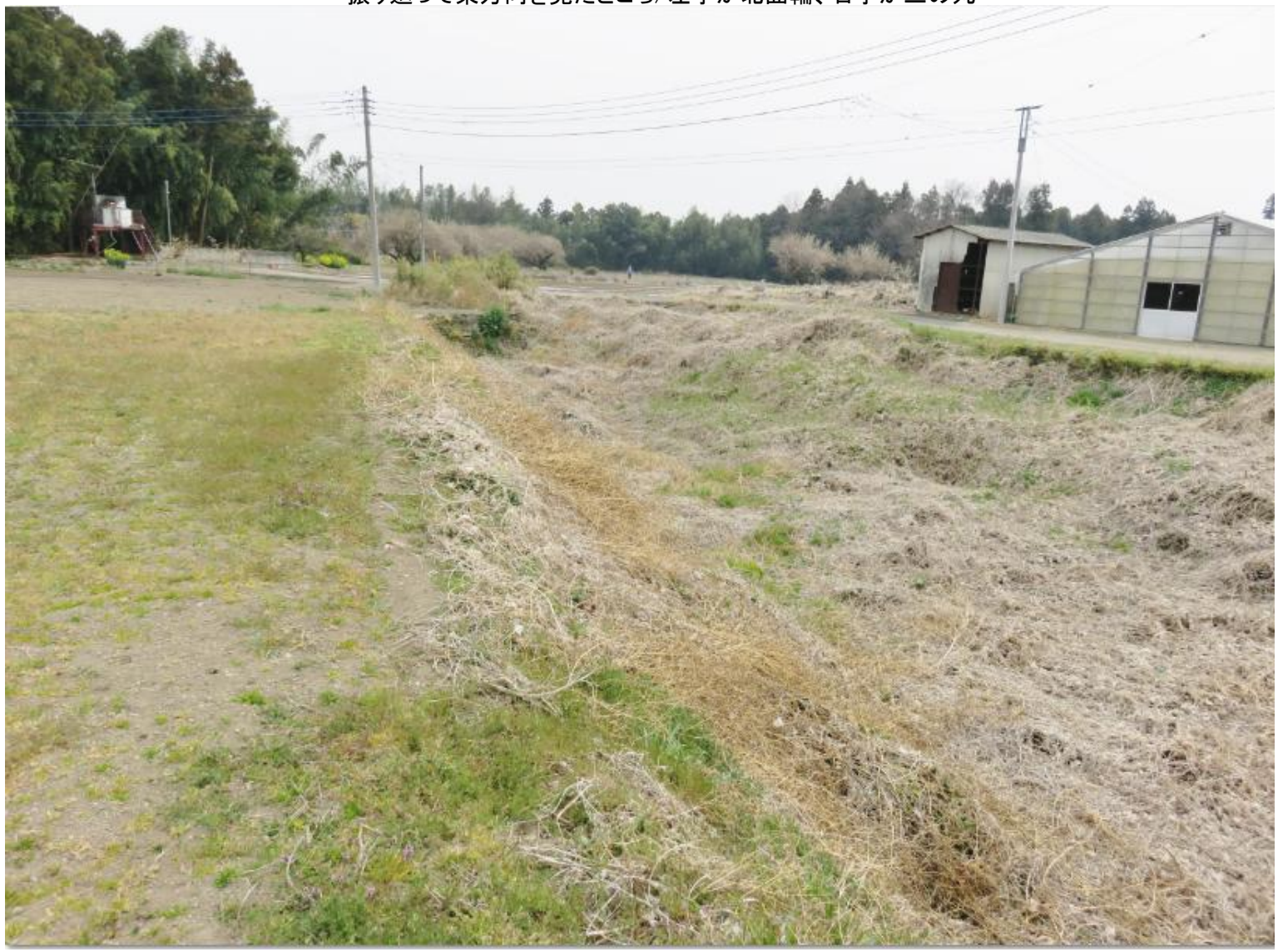
櫓台から北曲輪を見たところ

南西側から櫓台を見たところ/この高まりは古墳か/実は不動塚古墳という円墳（径約20m、高さ約5m ）

これはそこから南西方向を見たところで、前方に北曲輪と三の丸の間の空堀が見える

こんな塩梅/左手が三の丸、右手が北曲輪/空堀はこの先で吾妻川に下って行く

振り返って東方向を見たところ/左手が北曲輪、右手が三の丸



そこから櫓台を見たところ/櫓台の右手が大手虎口

これは西側から櫓台を見たところ

そこで振り返って北西方向を見たところ/北曲輪から金毘羅曲輪方向にあたる

南西方向/北曲輪のエリア

さて、ここは櫓台の東側の大手虎口/正面の道路は安房堀と呼ばれた堀跡らしい/左手の民家の庭先に下の説明坂が立っていた

甲冑師明珍信家鍛冶場跡

白井城総曲輪内青堀近く、ここは私屋敷と呼ばれていた。この付近には、白井城主かかえの職人が仕事場を構えていたが、鉱滓が畑から出土して、ここに鍛冶場跡のあったことがうかがえる。

白井城も、長尾氏が再び居城できるようになった景春・景英・高景の永正・天文の頃当時日本最高の甲冑師といわれた近村明珍藤原信家が、その得意とする鍛錬をここで作っていたのが裏付けされた。信家は越後に住中住で、白井は仕事の出張先さてあるが、その作品の銘に於上り白井保に原作之ばより、信家の血気盛んな時期のもので、でも最高級の逸品とされている。

白井住作は、一五〇〇年前半の時期で、天文十一(一五四二)年に正高と上杉謙信家作六十二間筋兜(東京都久山家所蔵誌掲載)も、ここで作られたのかと感じられ、この鍛冶場跡の発掘も試みたいものである。時の白井城主は関東管領上杉憲政関東幕注文の白井衆筆頭にあり、この地域の基となった長尾憲景である。

昭和六十三年二月

子孫

その道路を下って行った辺りは吹屋というエリアになる

近くにこんなものもあった

自然と歴史の里

白井五井

赤井

十世紀中頃に作られた「和名抄」の群馬郡の項に白衣郷があり、古が伝えていることから「衣」が「井」と表記されるようになり、その範囲は利根川西岸の子持村一帯であった。白井五井はこの白井台地から湧出する甘泉で、黄青赤白黒の五色の名称がつけられている。中国古代の春秋時代に唱えられた陰陽五行説という名称の合理主義を示す理法に五色があり、その色はそれ相応の徳を持つとされ、あとの絶は前の色から発生すると考えた。黄井は中郷田向の湧泉で、第二の青井は二白井卯熊に、第三の赤井は白井横町にあった。甘泉であったが、時に赤みを帯びる状態もあり、現在は消滅し現所もはっきりしていない。白井は中郷中井に、黒井は北牧黒井にある。

昭和六十三年十月

子持村

さて、今度は南曲輪と本丸との分岐点から帯曲輪をまっすぐ南方向に進んでみよう

空堀も帯曲輪に沿って延びている/その右手は本丸

その空堀の堀底に下りて南方向を見たところ

帯曲輪を少し進むと左手が一寸した平場になっている所があった

こんな塩梅/振り返って見たところ

その平場から左手の南東方向を見下ろしたところ/この下のエリアが南曲輪のようだ

右手の空堀を見たところ

そこでまた、空堀の堀底に下りて南方向を見たところ

これは帯曲輪の南側先端部で、右手の空堀もここで左手に廻り込んでいる

堀底から見たところ/空堀はこの先で左手に廻り込んでいる/元々はこのまま南方向に吾妻川へと下っていたようだが

帯曲輪の南側先端部からその廻り込んだ空堀を見たところ

左手を見ると、このように空堀は南曲輪の手前で止まっているように見える

堀底に下りて南曲輪方向を見るとやはり前方で止まっているような感じとなっている/空堀の右手は土壇状になっている

これは南曲輪を南側から北方向に見たところ/左手の高い部分が帯曲輪

これは空堀が止まった辺りの土壇の東側にあった後世のものと思われる石垣

これは空堀が止まった辺りの北側で帯曲輪に沿ってあった石垣/石垣の上が帯曲輪

これは同じくもう少し北側にあった石積み

これは吾妻川の対岸から白井城跡を見たところ/笹郭の櫓台から見えたと思われる中州がある

さて、白井宿を名残りを見てみよう

これは北向地蔵尊石堂

江戸時代に建立されたと記されている/傍には白井堰と呼ばれる用水路が流れる

正面の覆屋の下は羅漢水の井戸

羅漢水の井戸

羅漢水

「嫁に行くなら白井はおよし　田なし水なし井戸深し」とまでいわれたように　薬師井・延命水だけでは、寛政頃（一七八九～）、白井町内の二百の家並みの飲用水には、到底間に合わなかったのである。この窮状を見兼ねた下之町の庄屋金井氏は、住民のため井戸開鑿のことに意を決し、私財を投じ寛政七（一七九五）年三月四日、地鎮祭にこぎつけた。位置は、家の前庭三・四間程の所の低地で、月一日当主故弥次右衛門妻貞光尼が第一の鍬を入れした。十二日、四丈程のところで、突然二つの穴が開き、赤蛙が這い出してきた。また七と塩っぽい清泉が出てきた。竣工は三月六日　日数二十六日、人夫延四百七十五人かかり、井戸の深さ四十七尺、水深九尺であった。これより先き二月十八日、先霊と井戸の成功を祈るため、十六羅漢の供養をした。更に、赤蛙の這い出したことは、誠にこれ、あり瑞祥であるとて、「羅漢水」と命名され、文政八年春三月、曹林寺第三十七世玉州大泉和尚、「羅漢井記」を後世にと記す。寛政十一年二月、「羅漢井記」を刻んだ法華経供養塔を下之町に建立し、盛大に法要が営まれた。塔の高さ一四五センチ、幅九〇センチである。

昭和六十三年二月　子持村

こんなものも

白井宿の碑

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/index.html

http://yogoazusa.my.coocan.jp/siroikm.htm

http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Shiroi/index.htm

http://www.geocities.jp/zanyphenix/shiro517.html

http://www.hb.pei.jp/shiro/kouzuke/shiroi-jyo/

http://nordeq.web.fc2.com/shiseki/shiroi.html

https://blogs.yahoo.co.jp/s04hi992ma/18995590.html?_ysp=55m95LqV5Z%2BO6Leh77yI5riL5bed5biC77yJ

http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-358.html

http://www5.plala.or.jp/tutinosiro/tutinosirohenosyoudou/_HPB_Recycled/gunmanoshiro.html

http://ameblo.jp/napo-jou/entry-12116296922.html

http://castle.slowstandard.com/10kanto/17gunma/post_298.html

http://funayama-shika-3.blog.so-net.ne.jp/2016-08-24

http://tabi-and-everyday.com/archives/624

http://53922401.at.webry.info/201204/article_14.html

http://minowa1059.wiki.fc2.com/wiki/%E7%99%BD%E4%BA%95%E5%9F%8E

http://hanatanbou2.web.fc2.com/siraizyo.htm

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/komoti_hudo/

八洋食品
渋川
看護専門学校
こもち
玄棟院
赤城町樽
金井本町
自治会館
トヨペット
フレッセイ
ケーズデンキ
マックハウス
金井
吾妻川
しらゆり聖苑
カインズホーム
第一電機
金井南町
阿久津
入沢団地
入沢
渋川工高
渋川
渋川高
坂下町
落合橋
葬祭邸心音
樽
舟戸
赤城町樽
西友
遍照寺
三国街道
十二平
Japan,(C)ZENRIN
(C)Yahoo Japan